

いもの子の歌

障害者が地域で暮らし、働くために

●第1回 うつむかないよ ぼくたちは

■いもの子の歌に託して

川越いもの子作業所は、埼玉県の南西部に位置する川越市にあります。人口35万人の中核市であり、寺院や神社、城跡が残り、小江戸・川越と呼ばれる古い街並みを残す都市です。

この地に、川越いもの子作業所が生まれて30年になります。「川越市に一人ぼっちの障害者をださない」「どんな重い障害者も地域のなかで働き暮らすことを通して成長発達できる社会をめざす」「地域の障害者が気軽に立ち寄れるセンター的な施設づくりをめざす」という理念のもと、無認可施設として生まれました。現在は社会福祉法人皆の郷となり、市内に働く場を5カ所、グループホーム7カ所、入所支援施設1カ所、ヘルパー事業、相談支援センター、そして地域生活支援拠点試行事業を行っています。

川越いもの子作業所が生まれた当時、無認可施設であったため、運営資金と認可施設の建設資金づくりとして、普段の販売活動の

■うつむかないよ ぼくたちは

1
夜が明けて カーテン越しに
鳥の声が響き
ぼくの朝は始まる
古い靴を箱から出して
足を通した時に
僕の旅は始まる
風が吹いて 雲が流れ
雨が地面をながしていった

たとえ今が悲しくても
うつむかないよ ぼくたちは
なくさないで君の中の
たくましさをなくさないで
なくさないで君の中の
たくましさをなくさないで

2
駅に向かう人の群れの
流れにのって走る
ぼくはいま生きている
改札抜けてホームに降り立ち



▶I-MO楽団の演奏



▶川越春一番コンサートの様子



▲筆者右端

川越いもの子作業所
大島宗宏

になりました。「I-MO楽団」は、仲間と職員からなる6人が代表を務めますが、たとえば、第3川越いもの子作業所の仲間たちが、舞台上で発表しても、「I-MO楽団」と名乗って活動しています。CDを販売したり、行事に呼ばれたり、ライブを開催する活動をしています。

3年前からは、「障害のある人が安心して暮らせる街は災害に強い街です」をテーマに、3月11日の東日本大震災の日の近くに「川越春一番コンサート」を開催するようになり、歌い、演じ、踊り、そしてチケットの販売から、運営まで障害のある仲間たちが主人公となって行うコンサートです。今年で3回目を迎え、3月10日にロックバンド「怒髪天」と「ケラケラ」をお呼びしました。仲間たちが、自分たちの生活のなかで生まれた歌を、歌い踊り、語っていく姿に、たくさんのお客さんから拍手と感動をいただきます。主人公として働き、また自ら輝くことの実感できる瞬間です。

電車に乗り込んでいく
ぼくはいま生きている
風が吹いて 雲が流れ
雨が地面をながしていった
たとえ今が悲しくても
うつむかないよ ぼくたちは
なくさないで君の中の
たくましさをなくさないで
なくさないで君の中の
たくましさをなくさないで

この歌は、障害者自立支援法ができた2006年の翌年に生まれた『うつむかないよ ぼくたちは』という歌です。

■青天のへきれきの障害者自立支援法

自立支援法が施行されるまでは、グループホームで暮らし、作業所で働いても、グループホームの実費以外は昼食費も利用料もかかりませんでした。自立支援法施行後は、1万5000円から3万7200円の利用料が収入に応じて徴収されるようになりました。また食費についても、食材料費分がとられるようになりました。これまで低所得であることの配慮から無料であったものが、サービスを受けているということで応益負担が課せられるようになりました。

そのころいもの子は授産施設を2カ所つくり、グループホームが5カ所に増え、一定の年金と工賃が上がれば、障害の重い仲間も自立できるという見通しが広がっていました。職員や家族のなかでは、働く場や暮らしの場の資源が増え、障害の重い人も自立できる期